

平成26年度(平成27年産)麦類作況試験生育状況(古川農試)[3月20日調査結果]

1. 供試品種および耕種概要

・供試品種

	早生	中生
六条大麦	シュンライ	ミノリムギ
小麦	あおばの恋	シラネコムギ ゆきちから

- ・播種期：10月20日
- ・播種量：0.9kg/a（ドリル播き，条間25cm）
- ・施肥：尿素燐加安777号
(N : 0.8kg/a, P₂O₅ : 0.8kg/a, K₂O : 0.8kg/a)

- ・土づくり肥料等：粒状苦土石灰 6kg/a
- ・排水対策：明渠，暗渠及び弾丸暗渠2.0m間隔
- ・ほ場条件：沖積埴壌土 転換初年目（前作水稻）

2. 気象概況[2月中旬～3月中旬](表1、図1)

- ・平均気温は，期間を通じて平年を上回って経過した。2月下旬～3月中旬は平年差+1.5℃前後の高温傾向となった。
- ・降水量は，2月中～下旬は平年を下回ったが，3月上～中旬は多雨傾向となり，特に3月上旬は平年比668%の多雨となった。
- ・日照時間は，2月中旬～3月上旬は平年を下回って経過した。3月中旬は平年並であった。

表1 気象経過(2/11～3/20)[大崎市古川]

	平均気温(°C)		積算降水量(mm)		積算日照時間(hr)	
	本年	平年差	本年	平年比	本年	平年比
2月中旬	1.5	0.9	11.5	70%	42.2	84%
2月下旬	2.8	1.5	9.5	61%	36.9	80%
3月上旬	3.8	1.7	123.5	668%	31.4	60%
3月中旬	4.9	1.4	27.5	122%	57.8	102%

注1) 平年差(比)はアメダス平年値との比較

3. 生育概況

1) 3月20日現在の生育状況(表2)

- ・草丈は大麦，小麦とも平年を上回っている。
- ・茎数は，大麦ではほぼ平年並，小麦では平年より多くなっている。
- ・葉数は大麦，小麦とも平年に比べて1枚程度多く，幼穂長も平年より長い。
- ・あおばの恋は3月20日時点で主穂長が2cmに達し，平年より16日早く茎立期を迎えた。その他の品種はまだ茎立期に達していない。

2) 幼穂分化状況

- ・大麦，小麦とも3月20日時点で幼穂形成始期に達している。
- ・大麦では2月中～下旬に幼穂形成始期に達し，平年に比べて3～6日遅かった。
- ・小麦では，あおばの恋では2月中旬に幼穂形成始期に達し，過去4か年平均に比べて2週間程度早かった。シラネコムギとゆきちからの幼穂形成始期も，平年に比べて7～10日早まった。
- ・大麦の幼穂形成始期は平年より遅れたものの，2月中旬以降の高温傾向により，その後の生育は早まっており，全般に3月20日時点の生育ステージは平年より進んでいる。

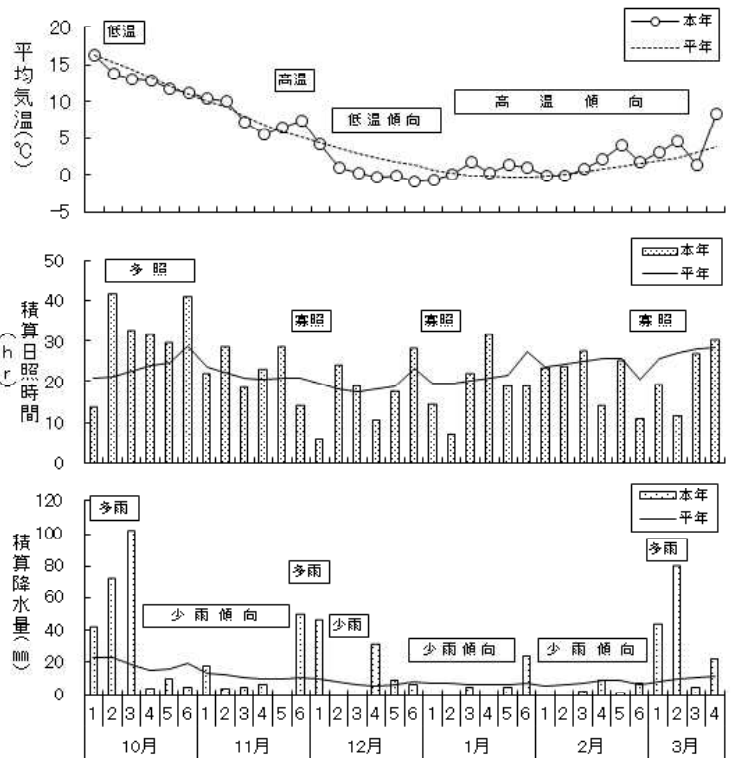


図1 半月別気象経過(大崎市古川)

表2 麦類生育状況(3月20日現在)

品種	草丈			茎数			葉数		
	本年 (cm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (本/m ²)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (枚)	前年差 (枚)	平年差 (枚)
シュンライ	13.6	189	128	1045	147	102	7.4	2.5	1.1
ミノリムギ	13.7	170	123	1012	137	96	7.3	2.3	0.7
あおばの恋	18.4	196	153	955	317	136	6.8	2.0	0.9
シラネコムギ	16.2	185	142	1083	154	109	7.6	2.1	0.8
ゆきちから	13.6	166	130	1296	291	128	7.4	2.1	0.7

品種	幼穂長			幼穂分化 程度	幼穂形成始期 (月/日)		主稈長 (mm)	茎立期 (月/日)	
	本年 (mm)	前年差 (mm)	平年差 (mm)		本年	平年		本年	平年
	シュンライ	2.80	1.86	0.77	IX中	2/16	2/10	11.2	—
ミノリムギ	2.26	1.33	0.57	IX前～中	2/23	2/20	10.6	—	4/9
あおばの恋	2.50	1.83	1.00	IX中	2/17	3/3	20.4	3/20	4/5
シラネコムギ	1.42	0.88	0.45	VIII～IX前	3/10	3/20	3.7	—	4/16
ゆきちから	1.24	0.78	0.37	VII前～後	3/16	3/23	7.5	—	4/19

- 注1) 平年比(差)は過去5か年(「あおばの恋」は平成22年度から供試のため過去4か年)の平均値との比較。
 2) 幼穂形成始期の平年値は過去5か年(「あおばの恋」は平成22年度から供試のため過去4か年)の平均値。
 3) 幼穂形成始期: 幼穂長1mmに達した日。

[参考] 麦類の幼穂分化程度と幼穂長(mm)

品種	苞分化期	小穂分化期				穎花分化期	
	V	VI	VII	VIII	IX	X	
小麦(シラネコムギ等)	0.5	0.5～0.6	0.6～1.0	1.0～1.2	1.2～4.0	4.0～5.0	
大麦(シュンライ等)	0.5	0.5～0.7	0.7～1.5	1.5～2.0	2.0～4.0	4.0～5.0	

注) 幼穂分化程度はI～Xの10期に区分されるが、V期以前は外部形態による判定が困難であるため省略。
 また、厳密にはVII期は前・後期に、IX期は前・中・後期に区分されるが省略。

平成26年度(平成27年産)麦類生育調査ほ生育状況[3月20日調査結果]

表3 耕種概要

担当普及 センター	品種名	実施場所	畑転換 年数	排水対策 (明渠、暗渠等)	播種期 (月/日)	播種量 (kg/a)	播種様式	条間 (cm)
大河原	シュンライ	大河原町	15	暗渠	11/1	1.0	ドリル播き	29.6
	ミノリムギ	大河原町	15	暗渠	11/1	1.0	ドリル播き	30.5
仙台	シュンライ	大和町	13	明渠、暗渠、弾丸暗渠	11/8	確認中	ドリル播き	27.0
大崎	シラネコムギ	大崎市古川	1	明渠、暗渠	10/20	1.0	ドリル播き	12.5
美里	シラネコムギ	大崎市鹿島台	1	明渠、弾丸暗渠	10/29	1.3～1.4	ドリル播き	23.8
	ゆきちから	涌谷町	1	明渠、弾丸暗渠	11/9	確認中	ドリル播き	19.8
登米	あおばの恋	登米市豊里町	10	暗渠	11/11	1.4	ドリル播き	20.3
石巻	シュンライ	石巻市桃生町	1	明渠、暗渠、弾丸暗渠	10/19	1.0	ドリル播き	30.0
	ミノリムギ	石巻市桃生町	1	明渠、暗渠、弾丸暗渠	10/20	1.0	ドリル播き	30.0
	シラネコムギ	石巻市小船越	10年以上	なし	10/19	0.8	ドリル播き	22.5

表4 生育状況(3月20日現在)

担当普及 センター	品種名	実施場所	播種期 (月/日)	出芽 良否	草丈			茎数			幼穂長 (mm)
					本年 (cm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (本/m ²)	前年比 (%)	平年比 (%)	
大河原	シュンライ	大河原町	11/1	良	11.4	170	118	807	174	113	3.2
	ミノリムギ	大河原町	11/1	良	7.9	118	85	367	104	66	1.8
仙台	シュンライ	大和町	11/8	良	7.8	68	-	192	29	-	1.3
大崎	シラネコムギ	大崎市古川	10/20	良	9.0	85	74	744	584	101	0.3
美里	シラネコムギ	大崎市鹿島台	10/29	良	13.8	142	133	942	123	150	0.8
	ゆきちから	涌谷町	11/9	良	10.5	112	108	522	88	123	0.6
登米	あおばの恋	登米市豊里町	11/11	良	13.2	150	145	377	274	85	0.8
石巻	シュンライ	石巻市桃生町	10/19	良	14.7	167	129	562	146	72	3.3
	ミノリムギ	石巻市桃生町	10/20	良	17.1	148	166	470	94	70	2.4
	シラネコムギ	石巻市小船越	10/19	良	10.9	99	96	893	61	59	0.9

注1) 出芽良否は達観で判断(良, 中, 不良の3段階を基本とする)。

2) 平年比は過去5か年の平均値との比較。

3) 仙台「シュンライ」は平成25年度から調査地点が変更となったため、平年値はない。

担当普及センターのコメント

1) 大河原

- ・2月中旬からの好天により、シュンライの生育量は平年並～やや良となっている。
- ・ミノリムギの生育量は平年をやや下回っている。
- ・今のところ雑草、病害虫の発生は見られない。

2) 仙台

- ・現在6葉展開期にあり、分けつの発生がみられるが、目標茎数は確保できていない。
- ・幼穂形成始期を迎えている。
- ・雪害、湿害の影響で、下位葉に黄化がみられるものがあるが、ほ場全体の黄化程度は「微」であった。
- ・スズメノテッポウが「少」程度発生している。

3) 大崎

- ・茎数は越冬前の約2倍となり、白鳥等の食害によって生じた生育停滞も回復しつつある。
- ・同一ほ場内でも、排水が悪い部分では、湿害による分けつ不足が若干見られる。
- ・幼穂長は0.3mmであり、まもなく幼穂形成始期に達すると予想される。

4) 美里

- ・シラネコムギでは、茎が起き上がってきている。
- ・シラネコムギ、ゆきちからの両ほ場とも雑草の発生は見られない。
- ・3月10日頃にまとまった降雨があったが、明渠の効果で大きな被害はなかった。

5) 登米

- ・2月、3月は気温が高く生育が進んだ。
- ・湿害等もなく生育は揃っている。
- ・雑草の発生は見られない。
- ・数日で幼穂形成始期に達する見込み。

6) 石巻

- ・2月下旬以降の高温により生育ステージが早まり、幼穂形成期はシュンライは平年より4日早く、ミノリムギは平年より10日早い。
- ・シュンライ、ミノリムギ、シラネコムギとも草丈は平年より長いですが、茎数は前回調査と同様に平年の6～7割程度と少ない。